

第55回護憲大会

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 久保田重明
編集責任者 坂下 司

平和憲法を守ろう

11月17日～19日、佐賀県にて「憲法ではなく、政治を変えよう」をスローガンに憲法理念の実現をめざす第55回護憲大会が開催された。1日目の開会集会には1600人、3日目の閉会集会には600人が全国各地から参加した。

1日目、藤本康成実行委員長より、安倍首相が言う改憲の狙いを見抜き、私たちがめざす社会にしていこうと呼びかけた。地元、連帯から、沖縄知事選で安倍首相は県民に寄り添うと言っていた。玉

城氏が勝利したが辺野古基地建設工事は続いている。安倍政権を倒すとあいさつした。シンポジウムでは緊急事態条項は権力者が法を守らずに行動を認める条項である。自然災害の対応は自治体の対応が重要。現場の事情が分からない政府に権限を与えるのは適切ではない。自衛隊は自然災害に必要な

**職場の矛盾
仕事の不満
国労に結集し
みんなを相談 解決へ**

と云うが自然対策基本法で対応できる。北海道の元自衛隊員の証言で東日本大震災時に日米軍事訓練を優先に行っていたために石巻に着いたのが9日後で米兵からも非難の声があつた。憲法9条だけではなく、24条（家庭における個人の尊厳と両性の平等）の大切さを報告した。非暴力な社会をつくる憲法24条と9条がつながる。



2日目の分科会では「地球環境 脱原発に向けて」

として、原子力研究室の伴英幸さんから、いろいろなる人の犠牲によって原発は成り立っている。国連人権理事会より日本政府へ勧告がされているが実行されていない。北海道、福島、茨城、島根、愛媛から原発問題課題について報告した。

3日目、特別提起では、東海第2原発について茨城平和擁護県民会議相楽衛事務局長より、11月7日、原子力規制委員会は運転期間延長を認可した。今後は6市村への働きかけを強め再稼働を止めると決意した。他に日本軍事同盟、横田基地のオスプレイ配備、女性ハラスメントについて提起された。



勝島一博実行委員会事務局より分科会の議論を地域・職場に持ち寄ろう。国民投票法は独裁者ほど好んです。安倍政権を打倒し、野党協働で市民連合を中心に、来年の統一地方選挙、参議院選挙に地域で奮闘しようとした。

水戸地方本部旗開き

日時 2019年1月12日（土）

11時受付 11時30分～

場所 水戸京成ホテル